

元ナチスの男は、なぜ裁かれることなく
長年自由の身でいられたのか。
その謎から戦後史の裏側を暴く
衝撃のドキュメンタリー！

敵こそ、我が友

～戦犯クラウス・バルビーの3つの人生～

監督:ケヴィン・マクドナルド [ラストキング・オブ・スコットランド] プロデューサー:リタ・ダゲール

MON MULLIGAN BRENNEN NIV DACHEN WILD BURCH YVERTENT UEN COPRODUCTION YALLAVIEN - FRANCH 3 CINEMA - WILD BURCH EN ASSOCIATION AVEC CHARENEN 4
Avec le soutien de la REGION ILE DE FRANCE Produit Par NITA DAGERE Réalisé par KEVIN MACDONALD www.teki-tomo.jp

www.teki-tomo.jp

配給:ハップル ロングライド [08・11] 配

トロント国際映画祭
正式出品

サン・セバスチャン
国際映画祭正式出品



ヒトラーに心酔し、アンデス山脈に“第四帝国”を夢見た、元ナチス親衛隊。彼の“3つの人生”を検証し、戦後の裏面史を白日の下にさらす、衝撃のドキュメンタリー!

クラウス・バルビー
—— 先天の怪物か、戦時の産物か!

彼は、1935年に22歳でナチス・ドイツ親衛隊に所属してから、1987年にフランスでの裁判で“終身刑”を宣告されるまでの50数年の間に“3つの人生”を生きた。それもとびざり残虐で欺瞞に満ちた人生。

第1の人生は、ドイツ占領下のフランスで、レジスタンス活動家やユダヤ人を迫害し、<リヨンの虐殺者 (Butcher of Lyon)>の異名を持つ、ゲシュタポとして。

第2の人生は、戦後のヨーロッパでアメリカ陸軍情報部のためにスパイ活動をしていたエージェント・バルビーとして。

第3の人生は、南米ボリビアにおいて、軍事政権を支援、チェ・ゲバラの暗殺計画をも立案したクラウス・アルトマンとして——。



敵は外なる「悪」ではなく、内なる「善」であること。

世界は多面的で人は矛盾していること。

でもだから愛おしい。

今のこの世界が、そして今の僕やあなたが、最も知らなければいけないこと。

森達也 (映画監督・作家)

残虐行為を犯したナチス残党の人生を縦糸に、その裏に潜む国家の犯罪や欺瞞を炙り出した力強いドキュメンタリーだ。

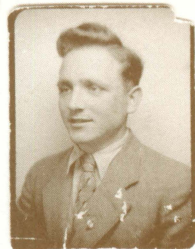
貴重な歴史的映像の連続に息を呑んだ。

都合が悪くなると個人に責任を負わせて知らぬ顔をする大国の姿は今も変わらない。

蟹瀬誠一 (ジャーナリスト・明治大学国際日本学部長)

チェ・ゲバラ、バチカン、CIA、ボリビア大統領——
バルビーとの意外な接点、奇妙な交錯。

バルビーの一生は、政府や秘密組織との醜悪な関係なしには成り立たなかった。大戦後、ドイツとかつての敵国であったアメリカは、バルビーが戦犯だと知りながらも、冷戦を勝ち抜くために対ソ連の諜報活動に利用した。しかし、間もなくバルビーの素性をフランス側に察知されると“ラット・ライン”を使い、彼を秘密裏に南米へと逃亡させる。“ラット・ライン”とは、まさにねずみの抜け道の如く、国外への逃走ルートを意味し、その策動にはバチカン右派の神父たちが深く関わっていたのだ! 多くのナチス残党が海を渡ったその陰で、カトリック右派の聖職者たちがごもっていた。



1951年、“アルトマン”の偽名を使い、バルビーはボリビアへ到着。1964年、クーデターでボリビアに軍事独裁政権が誕生、背景にはバルビーの暗躍があった。時を同じくして1966年にチェ・ゲバラがウルグアイ人に変装し、ボリビアに潜入、ゲリラ活動を開始する。反帝国主義を掲げるゲバラに対し、生涯を懸けて反共主義を貫くバルビー。対極にある2人の数奇な運命がここで交錯する。

本作は、バルビー本人の内肉はもちろんのこと、レジスタンスの英雄であるジャン・ムーラン、バルビー裁判の模様、チェ・ゲバラの演説風景や無造作に横たえられた彼の遺体などの貴重なアーカイブ映像と豊富なインタビューとで構成されている。これらの映像と新たな証言の数々は、どんなスパイ小説や劇映画をも凌駕し、我々に真実を訴える。

「戦争が終結してから60年を経た今も尚、国家や政府は得体の知れない組織や個人と関わって、成果を上げている」という監督の言葉に、本作の扱う現代社会に通ずる今日的なテーマが明示されている。

クラウス・バルビーの <人道に対する罪>
*公式な罪状は17に及ぶ／一部抜粋／その他多数の罪は、時効・証拠不十分等で不問

1. サント・カトリヌでの一斉検挙
1942年6月9日、86名の“在仏ユダヤ人総連合”のメンバーを逮捕、内78名をアウシュヴィッツに強制移送。

1. イシューの子供たちの逮捕
1944年4月6日、リヨン近郊のイシューにあるユダヤ人孤児院で、44名の子供ならびに7名の職員を逮捕、内34名の子供と4名の職員を強制移送。

1. 最後の移送列車

1944年8月11日、600名以上のユダヤ人を最後の移送列車(フランスから収容所へ発車した最後の列車)で強制移送。

敵こそ我が友

～戦犯クラウス・バルビーの3つの人生～

監督:ケヴィン・マクドナルド「ラストキング・オブ・スコットランド」「運命を分けたサイル」「ブラック・セブテンパー/五輪都市の真実」(1999年度アカデミー賞長編ドキュメンタリー映画賞受賞)

2007年/フランス映画/1時間30分/1.66/35mm/Dolby SR-SRD/原題:MON MEILLEUR ENNEMI 英語題:MY ENEMY'S ENEMY/日本語字幕:寺尾次郎

配給:ハップ・i&e ロングライド | oM&R | eE 宣伝:アルシネタラン

www.teki-tomo.jp

7.26(土) 真実が暴かれる!

特別鑑賞券 ¥1,500(税込) 絶賛発売中!

<当日一般 ¥1,800(税込)の処/公開前日まで発売> 御鑑賞日の5日前から指定席券とお引換え頂けます。

有楽町線銀座一丁目駅7番出口 銀座線京橋駅2番出口 徒歩2分

銀座テアトルシネマ

03-3535-6000 www.cinemabox.com

11:30	13:30	15:30	17:30	19:30
-------	-------	-------	-------	-------

全席指定/定員入替制 <毎週水曜はサービスデー 男女共に¥1,000均一>

